

飯豊連峰保全連絡会 ニュースレター

発行者：飯豊連峰保全連絡会

■平成 25 年度合同保全作業の報告について

平成 25 年度 飯豊連峰保全連絡会 合同保全作業を平成 25 年 9 月 7 日（土）、飯豊連峰の梶川尾根上部にて実施しました。梶川尾根での合同保全作業は、平成 18 年の実証試験にはじまり、平成 21、22、24 年度の合同保全作業に続いての作業となりました。

【実施スケジュール】

9 月 7 日（土） 天候：曇り後雨 参加者 43 名（17 団体）

- 4:00 天狗平ロッジ集合（点呼、作業内容等説明、荷物配分）
- 5:00 登山開始
- 9:15 現地着、各班に分かれ作業（途中、休憩昼食）
- 13:40 作業振り返り（作業地 C→B→A）
- 14:30 下山開始
- 17:30 天狗平ロッジ着、懇親会



【作業箇所及び作業内容】



A 工区（1 班）：トットバノ頭^{カッチ}、B 工区（2 班）：小池～ケルン、C 工区（3 班）：ケルン～1,800m

・A 工区（1 班）：トットバノ頭付近

登山道のガリー（降雨や流水によりできた小さな谷）侵食部が進行しており、平成 21、22 年度の合同保全作業に続いての作業となりました。主な作業として、①登山道の表流水の流量を減らすための排水処理（水切り工）、②流速を落とし土砂の流出を防ぐための土留め工を行いました。今回の作業には、登山道の刈り払いで生じたササを直径 15 cm 程に束ね、ヤシ製の土のう袋、ヤシ繊維等を組み合わせて使用しました。

【A 工区の土留め工】



・B工区（2班）：小池～ケルン（フキアゲ沢源頭付近）

平成 21、22、24 年度の合同保全作業に続いての作業となりました。これまでの作業の効果により土留めに土砂の堆積が確認できましたが、部分的に土留め側面の侵食の進行、側壁が崩れることによる土砂の流出が懸念されました。そのため、新たに土留め工を設置して手直しを行いました。B工区でもヤシ製土のう袋・ヤシ繊維・ササ束等を組み合わせて施工しました。ポイントとして、当該箇所では侵食部が細く急勾配となっているため、かなりの量の水と土砂が流れ出ることを想定し、土留めを高くしました。



【B工区の土留め工→】

・C工区（3班）：ケルン～1,800m

平成 18 年の実証試験、平成 21、22、24 年度の合同保全作業に続いての作業となりました。C工区は施工区が長いため、複数の作業が行われました。①ヤシ製ネット・土のう袋を用いた排水工として、昨年までの作業で設置した排水工に一定の土砂の堆積が確認されたため、さらなるかさ上げを行いました。②侵食の進行部にヤシ製ネット・土のう袋による土留め工を新たに設置し、手直しを行いました。③植生回復のため麻製植生ネットを敷設しました。④拡幅した登山道で歩行路と流水路を分けている所では、登山者に歩行路を誘導するための緑ロープを敷設しました。



【C工区の①排水工】



【C工区の②土留め工】



【C工区の③植生ネット敷設】

作業終了後には参加者全員による振り返りの時間を設け、各班の班長より各工区の施工方法や意図を説明し、共有を図りました。加えて、技術部会の山形大学 菊池先生より「小さく、こまめに、根気よく」と助言をいただきました。

今回の作業では、当会幹事の井上氏（小国山岳会）に統括リーダーとして指揮監督等、子細に渡ってご尽力いただきました。また、小国山岳会の皆さまには、宿泊（前泊、後泊）や懇親会について柔軟にご対応いただきました。事前の緑化資材等の荷上げには、複数回協力くださった方や、作業当日に参加できないが荷上げだけでも力になりたいといった方など、今年も大勢の方々にご協力いただきました。今回の作業に関わっていただいた飯豊連峰を愛する多くの登山者や山岳関係者、地域関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。

【参考ホームページ】

・環境省 磐梯朝日国立公園 各種資料

(飯豊連峰保全連絡会の会則やニュースレター等)

<http://www.env.go.jp/park/bandai/data/index.html>

・東北地区アクティブレジャー日記

<http://tohoku.env.go.jp/blog/>

【発行者】

飯豊連峰保全連絡会（事務局）羽黒自然保護官事務所（^{つげ}柘植、^{しろがね}白銀）

〒997-0141 山形県鶴岡市羽黒町荒川字谷地堰 39-4

TEL：0235-62-4777 FAX：0235-62-4537 E-mail：RO-HAGURO@env.go.jp